

自立活動（聴覚障害教育）

平成30年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問1～問6 全6問）

時間 9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて2ページです。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問題別に8枚あります。ホチキスの針は、はずさないでください。  
別に下書用紙が1枚あります。  
全ての用紙に、
  - ①種目欄  
受験する種目の□欄に✓を記入してください。
  - ②受験番号欄  
受験番号を記入してください。
  - ③氏名欄  
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問題と同じ番号の解答用紙に記入してください。  
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。  
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。  
筆記用具は、HBの黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、用便や発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、解答を直ちにやめ、解答用紙と下書用紙が回収されるまで、着席したままで待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問1 通常の学級で学ぶ聴覚障害児が、効果的に学習を行い、円滑な学校生活を送ることができるために、教師や学校などが配慮すべき事項について説明しなさい。

問2 聴覚障害児は、知的な側面の発達の遅れがない場合でも、ことばの発達が遅れることが多い。その理由を述べなさい。

問3 聴覚障害児は、読むことを「上手に発音すること」ととらえていたり、知っている言葉から自分なりに理解したりすることがあるため、読みの入門期に、書かれた文の意味を正しく読み取ろうとする構えをもたせることが重要である。そのための指導の一つとして、日常場面の簡単な文や短い文章を用いて、書いてある通りに動作や絵で表現させることは、児童にとって、また、教師にとって有効であると考えられる。その理由を述べなさい。

問4 特別支援学校（聴覚障害）の授業の土台となるのは、「教員と児童生徒のコミュニケーション」「児童生徒同士のコミュニケーション」である。コミュニケーションが成立しないと授業内容の理解は困難になる。授業中のコミュニケーションを成立させるために、教師はどのようなことに配慮すべきか、次の（1）～（5）に関する配慮について簡潔に述べなさい。

- （1）聞こえの状態
- （2）コミュニケーション手段
- （3）生徒の座席，教師の立つ位置，教師の顔の方向
- （4）教師の話し方
- （5）板書

問5 図1と図2に、A児とB児の良聴耳の聴力図を示した。A児とB児の聴覚障害の程度と聴力型について説明しなさい。さらに、補聴器装用下での、言語音の聞こえや理解の特徴を比較して述べなさい。

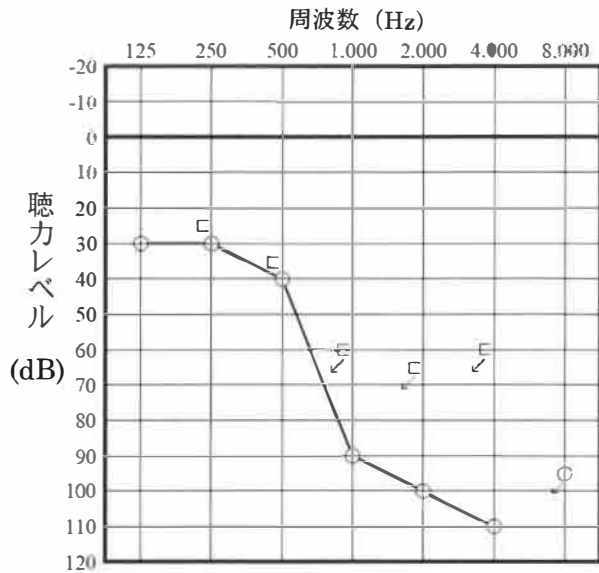


図1 A児

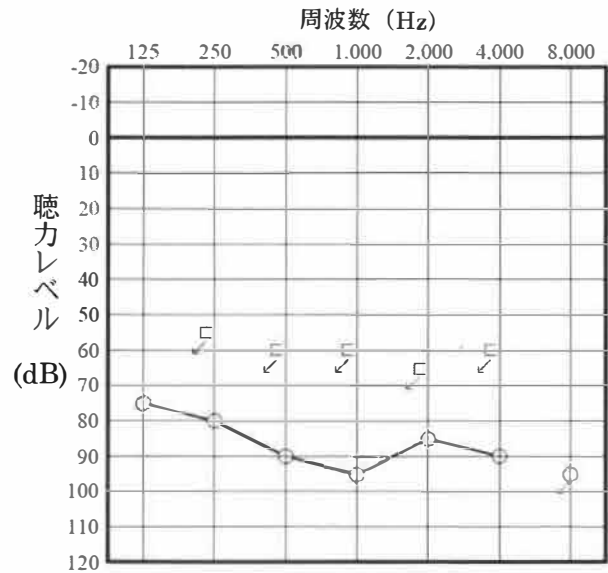


図2 B児

問6 次の語句又は事項のうちから、三つを選んで説明しなさい。解答の初めに、選択した語句又は事項と、その番号を書いてください。

- (1) 言語指導法としての自然法
- (2) 乳幼児教育相談における家族支援
- (3) 大曾根源助
- (4) 音節とモーラ
- (5) 音圧レベルと聴力レベル
- (6) 有毛細胞